

郷土こぼれ話

地域の神様 ③ 大雷神社（新島）

— 新島順一さんにお話を伺いました —

大雷神社は、新島地区の氏神様です。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康等が活躍した時代、新島右近によって創建されました。

大雷神社は、別わけ雷いかづちのかみ命のみこと（雷の神様）を祀り、五穀豊穰の神様です。また、江戸時代病気が流行したとき、医者にかかることができなかった人々は大電だいでん八公様はちこう（大雷神社）に病気が治るように願をかけました。神社の拝殿にかけられていた馬のわらじを借りてきて、病人の枕元においておくと不思議と病気が治ったと言われています。お礼に馬のわらじを一つ加えてお返ししたそうです。大雷神社は人々を叶えてくれる神様でもあったわけです。御神輿はありませんが、人々の手を煩わせないやさしい神様でもあります。

現在、総代と年番という役員さんが中心になって神社をお護りし、祭事を執り行っています。1月2日には歳旦祭が、7月27日、28日には夏祭りが行われます。また、春（4月15日）と秋（10月15日）のお日待ちには、地域の人たちがお参りに行きます。大晦日には、初詣のための準備をしています。

江戸時代中山道に沿って家の数は少ないながらも、新島は神様を中心にして一つにまとまって発展してきました。400年以上たった今もこれからも同じようであって欲しいと思います。

これから、社会はますます変わっていくと思いますが、新島地区の人たち皆が氏子として参加し、地域の人々が一つにまとまって欲しいと思います。住んでいる人たちが行事に参加し、地域の文化を吸収して、さらに活用しながら次の世に伝えていくことはとても大切なことだと思います。神様に手を合わせることは、自然を崇めることであり、自然を大切にすることでもあります。そして、私たちは自然からたくさんの恩恵を戴いていることを忘れないようにしたいと思います。



大雷神社（新島）

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより 平成27年10月号

